

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3390100083 | | |
| 法人名 | ひかりの里 有限会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム ひかりの里 (1階ユニット 藤・2階ユニット 桃) | | |
| 所在地 | 岡山県岡山市南区中畦187-8 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年3月15日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3390100083-00&PrefCd=33&VersionCd |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ライフサポート | | |
| 所在地 | 岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館 | | |
| 訪問調査日 | 平成29年3月31日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひかりの里は、岡山市南区郊外に立地し、田園の中、静かな自然環境にも恵まれています。なかとう整形外科をバックに、デイサービス、有料老人ホームと併設し、全て渡廊下で繋がっており、他の部署との交流も頻繁にあり、何より介護と医療との連携と早急な対応が図れ、利用者様にも安心して過ごして頂いています。又ご家族からも信頼されています。地域包括ケアネットワークの運営委員として、ひかりの里の理念である介護・医療・地域の融合を目指して交流研修も行っていきます。住み慣れた地域で、家庭的な暖かい雰囲気の中、居心地良く『その人らしく暮らす』普通の生活ができるように、利用者様の思いを汲み取りしっかり寄り添い、心身の状態を常に考え、お一人お一人が穏やかに笑顔で過ごせるように、また日々の生活に満足して頂けるように取り組んでいます。毎年7月には夏祭りを開催しています。地域の方、ボランティアの方、学生、ご家族様等多くの方に参加して頂き、ひかりの里音頭に合わせての、歌あり踊りあり迫力ある太鼓等に感動し、笑顔あふれる楽しい時間を過ごすことができています。ご家族の希望があればご相談の上、看取りまでお世話させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームを開設して十年の節目を越え、車椅子の利用者が多かった時代から一転して自分の足で歩く人が多くなった今もそれなりに厳しい状況にこのホームは立ち向かっている。しかし、ホームからは笑い声や利用者同士・利用者と職員のおしゃべりの声が絶え間なく聞こえてくる。利用者の皆さんは、思い思いの個性をこのホームで縮こまる事なく発揮しており、のびのびとした雰囲気が漂っている。一方職員は「振り回されるのが仕事」とばかりに、一人ひとりに、その都度相対している。まさしく「主役は利用者」を地で行っている。「いつまでも自分の話を聞いて欲しい人」にも、「ある瞬間、スイッチが入ったように不穏状態になる人」にも、「とにかく、なんとかかして外に出ようと虎視眈々としている人」にも職員は「困るわ」と言いながら笑顔になっている。「記録を大切に」等、業務の数々も確実にこなしながら、法人からの支援を得て地域に貢献しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 常に目に触れる場所に事業所の理念を掲示し、日々のケアの中で意識をもって、サービスの提供ができるように取り組み実践している。又オリエンテーションにおいての説明とアンケートの実施にて、カンファレンス等にての意識確認に努めている。 | 理念「誠実・希望・愛・笑顔」をモットーに、「その人らしく暮らす」支援をしている。利用者・家族へのアンケートは数年前から継続して行なっているが、今回ホームに出入りする外部の福祉業者にもアンケートをして、第三者の目で見えた意見を参考にして運営に活かす取り組みをしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事には積極的に参加している。事業所として夏祭り開催にて、地域の方々 多種多様の方との交流を大切にしている。定期的なボランティア 小中学生 高校生 慰問して下さる方々の来訪、学校行事への見学や興除神社への参拝等により交流を、図っている。 | 母体の病院・有料老人ホーム・通所介護等と同敷地内にホームがあるので、合同の夏祭りは毎年参加者も多く盛況に行なわれ地域の人との交流もある。JAのお米フェスタへの参加や小学校の運動会、音楽会の見学に行き地域交流をしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議において『認知症ケア』の実例をもとに認知症の方のお話をさせて頂いている。地域行事等に入居者様と一緒に参加させて頂き、認知症の方の理解を深めて頂く機会としている。中学生の職場体験や高校生のインターシップを受け入れ、認知症の方の理解と説明をさせて頂いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議に多種多様な方の参加をして頂き、意見 要望 研修等意見交換の場となっている。議事録を玄関に置き、いつでも、だれでも閲覧できるように開示している。 | 地域包括、民生委員、町内会長、小学校校長、地域の人、家族等の参加を得て2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。活動報告・情報交換の他、災害時の避難訓練について話し合う等、活発な意見交換をしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議に参加して頂き、わからないことがあれば、直接市役所に出向き、意見アドバイスを頂きながら、質の向上につながるように、常に連絡を取りながら、施設運営に努めている。 | 地域包括とは情報交換等をして日頃から良い連携を築いている。市の担当者には職員の処遇改善やサービス提供の事などで相談をしているが、いつもは介護保険の請求業務について聞く事が多い。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 入社時にはオリエンテーションで必ず研修し説明している。カンファレンス等にて、マニュアル作成ファイルを解説とし、勉強会を行っている。職員の理解と認識を深めている。又議事録に残し、職員間での理解の共有に努めている。 | 帰宅願望が強く離設のリスクの高い人がいる。外に出た時には職員がすぐ見つけて対応した事もある。玄関は安全対策の為施錠しており、一時的にユニット入り口、階段の昇降口も施錠して職員・訪問客等はエレベーターで移動している。 | やむなく一時的に玄関等の施錠をしなければならぬ時は、ホームの内規による手続きに加えて、運営推進会議等でプライバシーに配慮しながら報告したり、家族の理解も得ておきたい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 合同カンファレンス等にて、マニュアル作成ファイルを解説とし、勉強会を行い職員の理解と認識を深めている。又議事録に残し職員間の共有に努めている。日頃より職員との会話の中で、変化に気を付けるよう意識した取り組みに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人を利用されている方もおられた。 施設内外の勉強会の機会を持ち、必要な制度の活用ができるように、知識 認識が深められるように努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 事前に疑問や不安な点をお聞きし、契約時重要事項説明書の丁寧な説明をさせて頂き、お互い納得した上で、サービスの提供が開始できるように努めている。その都度において、問題点が生じた場合、納得して頂けるまで丁寧な説明に努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 契約時には内外部への相談窓口を記載しているとともに運営推進会議 面会時等に、意見や要望が頂ける環境に心がけている。可能なことは運営に反映できるように努めている。 | 「入居者・家族様アンケート」を再開し、質問に対して4項目の回答を用意して年初めに実施している。毎月各担当者が利用者の生活の様子・状況等の手紙を書き、新聞「ひかり通信」と一緒に家族へ送付している。面会時には家族とよく話し合っている。 | 家族との関係性はとても良いと思うが、家族からの意見をさらに引き出す為の方法を考えてみよう。「意見が何も無い」のではなく「引き出せていないのかもしれない」と考えてみて欲しい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体会議を通じて、参加職員全員に、一言でも発言できる機会を設けている。 日々の中で意見や提案がいつでもいえる柔軟な体制や関係が図れる環境に努めている。 行事 イベントは職員が主体性をもって、企画立案を行っている。 | 職員間のコミュニケーションは良く、会議では全員に意見や提案等を言ってもらい意識を高めるようにしている。管理者の交代もあったが新体制もすっきり定着していた。職員からの声や要望を吸い上げ運営に反映するようにしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者と管理者は常に報告連絡相談を密に図っている。 職員は、利用者担当を決め責任感ややりがいを持てるような工夫に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設内外の研修参加の機会を掲示・回覧などで設けている。 自己評価チェックシートの実施を行っている。 カンファレンス時、必要に応じて介護技術取得を図るため現場研修に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修に参加することで同業者との交流の場となり情報交換 意見交換ができるように努めている。 その時知り得た情報は、現場に反映している。 地域包括ケアネットワークのシンポジウムに参加することにより交流を深めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前に訪問調査を行い情報収集に努めアセスメントを行っている。本人の状態 意向等を伺い、不安や困っていることあれば丁寧な説明にて安心感の構築に努めている。本人様の様子を見ながら頻回な関わりにて入居後も安心して過ごして頂けるような関係づくりに努めている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用者家族の困っている事 思い 要望を伺い信頼関係を築くようにしている。どんな小さなことでも相談 助言ができる雰囲気になら努めている。本人が安心して暮せれるような、信頼関係の構築に努めている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | グループホームはどのような場所であるか、説明し理解をして頂いた上で、ゆっくりお話を聞きながら、ご本人 家族を支援していく上で必要に応じての対応ができる体制づくりに努めている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人様のできることを見極めながら、本人の能力に応じて一緒にお手伝いして頂いている。日常生活の中で、掃除 洗濯 食べた後の片づけ等などや得意な事などで、利用者同士のふれあいに、家庭的な雰囲気を大切にしている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族に行事 会議等にできるだけ参加していただけるよう声掛けに努めている。本人と家族との繋がりを大切に思っていたけように、家族と連携を密に取りながらご本人様と一緒に支えていける関係づくりに努めている。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 地域の方ボランティアの方等また他の部署でのイベント 行事参加にて、顔見知りの方とのふれあう機会 交流に努めている。 ご家族 ご近所の方の訪問は居室 リビングにて会話の中 思い出話に耳を傾け聞くことにより快く過ごして頂けるような支援に努めている。 | 協力的な家族が多く、気分転換を兼ねて前に住んでいた家に行ってみる、墓参り、買い物、自宅へドライブ等家族と一緒によく外出している。併設のデイサービスを利用していた人は、馴染みの人がいるデイに遊びに行く事もある。それぞれ個別支援をして関係性を大切にしている。 | 例えば外出も伴いながら家族に利用者の「馴染みの人や場」につないでいただければ、その人の喜びは大きなものになるだろう。このようなチャンスを家族に積極的にお願いし続けて下さい。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | リビングでの座る位置も、だいたい決まっていますが、利用者同士の会話ができるように、居心地よく落ち着いて過ごせるように配慮している。又職員が利用者間でレクリエーション行事を通し利用者同士が良好な関係が保てるよう工夫している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所時 他の施設への移動時には、情報提供書の提供と説明に努めている。退所後においても相談あれば、その都度に応じたアドバイス 助言等もさせて頂いている。転所先への見舞い、面会に伺ったり、ご家族さまが来てくださったり連絡も取っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | バックグラウンドを踏まえ、普段の会話の中から思いや意向をくみ取ったり、つぶやき、表情、仕草等でも感じ取っている。それでも困難な場合にはご家族の協力を頂いている。 | 日頃の暮らしの中でいろいろな話をしながら、一人ひとりの利用者へ「この暮らしどう思いますか？」等、聞き取りをして本人の気持ちや意向を察知するように努めている。殆どの方が会話が可能な為、比較的意向を把握しやすい。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人、家族から生活歴 既往歴 環境等などの情報をもとに、又これまでサービスが使われていた場合、ケアマネ 相談員からの情報収集を得て、本人主体として、ホームでも安心して過ごして頂けるような支援に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の様子心身の状態の観察に努め、異常の早期発見ができるように、日々のかかりを大切にしている。必要に応じては記録に残し、確実な申し送りができるように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | その都度に応じ、カンファレンス等にてケアマネを中心に利用者担当が、ご本人 ご家族の意向確認の上 ニーズの把握に努めケアプラン作成としている。必要に応じて定期的評価 見直しとしている。 また関係者にも連絡 相談として実践に反映できるように努めている。 | 記録の書き方を重要視し、職員にも浸透するように申し送りをして共有している。日々の生活の中からの気づきや利用者の思いを汲み取る手法は素晴らしく、役割や生きがいをもち、楽しみにつながるようなケアプランを設定している。 | ケアプランにつながる「利用者の気持ちを知る」というチャレンジはとても素晴らしい。その人に見合った問いかけの工夫や記録の仕方について話し合い、さらにステップアップして欲しい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の生活記録に日々の様子やケアの内容、状態変化など記入し、異常の早期発見に努めている。申し送りノートの活用にて職員間の共有を図り、必要に応じてはカンファレンス 会議等にて検討、見直し改善に努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 御本人の思いや意向に添った援助ができるよう ご家族への報告連絡にて理解と協力が得られるように努めている。 また他の部署との協力も得られるように、普段からの関わりも大切にしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域行事イベント等への参加、小中学生、高校生の受け入れを毎年行つての交流に努めている。また学生ボランティアによる太鼓、歌、踊り等一緒にすることを楽しみとしている。気分転換も図れるような支援に努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 契約時ご家族の要望の確認をしている。病院と併設していることで、利用者様と良好な関係が築け安心して頂いている。専門的な診療が必要となれば専門医療機関へ紹介する等その時の状態に応じての診療体制をとっている。 | 母体の整形外科をかかりつけ医としている人が多いが、内科は従来のかかりつけ医を継続している場合が多い。母体病院が併設されているので、緊急時にもすぐ対応してもらえ、天候に左右されず歩行器や車椅子のまま渡り廊下で他施設内を経由して受診が出来る。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常の健康管理等の相談や指導の協力は得られている。何かあれば、報告 連絡 相談の上、早急な対応が取れている。(他の部署それぞれに、看護師が配置している) | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療 介護での情報提供書の作成と提示としている。 入院中できるだけ面会に行くことで利用者様に安心して頂いている。、医療関係者との情報交換や相談にも応じ、スムーズな退院となるように努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期医療を視野に入れ、ホームで出来る事、出来ないことを明確にして、ご家族への説明や利用者様の希望を伺い、その時の状態に応じて医師やご家族と相談しながら決め、方向性の共有ができるように努めている。 | 開設以来10人以上の看取りの経験があるが、ここ1年程はない。特別な医療処置が必要となったり、食事が経口摂取出来なくなった時は、入院となるケースが多い。今後も本人・家族の強い希望があれば、医師・家族等と話し合いながら最期までお世話したいと思っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生時のマニュアルを作成し、統一した実践ができるように定期的に訓練を行い、冷静な対応と実践力が身につくように努めている。消防署の講習会 上級救命講習等の参加の促しに努める。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災や地震、水害等のマニュアルは備えている。定期的に災害時(夜間想定)の訓練も行い、避難経路や自動通報装置の使い方などの確認を行なっている。その都度地域の方 ご家族の方の参加呼びかけ、協力をお願いしている。 | 年2回日中・夜間想定した避難訓練を実施している。津波警報のシュミレーションの時には、1階から2階への避難訓練をした。消防署より、ホームは指定の避難場所ではなく避難物資が届かないので、市の方へ言うようにとの助言があった。災害マニュアルを作成して提出した。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 自尊心を傷つけないように、トイレ介助 更衣時などはドアを閉め、プライバシーに配慮した援助に努めている。性格 生活習慣を把握し日々の生活の中で、その人その人に応じた 関わり方 声掛けを工夫とした援助に努めている。 | 個人情報保護を考慮して居室は番号のみで氏名の表示はない。その代りに花の絵のプレートをつけている。家族より明るくなって素敵になったとの感想もあった。排泄時には羞恥心に配慮して言葉かけには気をつけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 『本人はどうしたいのか』『本人ならどうしたいのか』本人主体となるように常に考え、可能な限り、本人の思いに、寄り添えるように意識をもって取り組んでいる。 又言いやすい環境や関係づくりにも努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 生活すべての場面において、ご本人の思いを尊重とし、自分らしく生活できるように工夫とした声掛け援助に努めている。一日の日課はあるが、他の問題により時間配分でできず、こちら側の都合になってしまう事もあるが、可能な限り、思いに添えるよう心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 整容道具を整え、フローア洗面台でいつでも整えられるようにしている。 本人の意向確認をしながら好きな服 着たい服など一緒に選んだり、訪問理容で好みの髪型にして頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 施設管理栄養士の元での食事提供ではあるが季節行事 イベントの時は特別メニューで楽しみある食事となっている。食べた後の片づけ等は一緒に行ってもらえるよう努めている。 おやつ作りは、月1~2回利用者と一緒に作り食べて楽しんで頂いてる。 | 食事は隣接する法人施設の厨房から調理されて運ばれてくる。個々の食事形態に合わせ、普通食、刻み、トロミ等があり、全介助の人もいる。皆さん食欲もあり完食していた。利用者と一緒にのおやつ作りは好評であり、ケーキ、焼きそば等を作っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分が少ない人は食事 水分チェック表への記入にて把握に努めている。食事形態の工夫 おいしい飲み物等、必要に応じては代替えにての対応にも努めている。 個々の嗜好 制限もあるが健康管理の範囲内であれば、尊重とした援助に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、様子見ながらできるだけ自分で行ってもらい、出来ていない部分のみ声掛け援助とし、清潔保持に努めている。口腔内のトラブルある時は、訪問歯科との提携にて、ご家族に報告連絡相談の上、随時行ってもらえるような支援に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表にてパターンを知り、その人その人に合った援助に努めている。何気ない行動 仕草等の把握に努め、トイレでの排泄、排泄の自立に向けて援助の工夫に取り組んでいる。 | 職員が感心するくらいよく食べ、よく噛み、良い便の出る人もいる。男性利用者も便座に座っての排泄を基本としており、個々の排泄リズムを把握し適宜声かけ誘導をして自立支援につなげている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日常的に体を動かしたり、十分な水分を摂ってもらうよう声掛けに努めています。時として起床時にミルクを飲んでもらったの自然排便の促しに努めている。必要に応じては、医師に報告指示を受けての下剤服用にての排便としている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本的には、毎日入れるようにはしている。本人希望に応じての対応としている。希望されない時には、様子を見ながら又タイミングを図っての声掛け工夫にての援助に努めている。一般浴が困難になった場合、渡り廊下で有料老人ホームの特浴にての対応とさせて頂いてい | 週2日入浴を基本としている。2F浴室にはリフトが設置されているが、現在使用している人はいない。入浴日誌があり、殆どの人が職員と1対1で一部介助及び見守りで浴槽に入っている。長時間入る人もいるが、見守りをしながら本人の好きなように入ってもらっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | その人に応じて、希望された時には時間にとらわれず休んでもらっている。が夜間の安眠の妨げになるようであれば、声かけリビングで過ごして頂いている。夜間 眠れない方は居室にて、話を聞いたり お茶を飲んでもらいながら、安心しての入眠の促しに努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 医師 看護師の指示のもと、報告 連絡 相談を密に取り、個々の把握に努めている。職員は各自薬の副作用や用法 容量はファイルにての確認に努めている。薬の変更 追加があった場合状態の様子観察に努め医師 看護師への報告とし、記録に残している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 今までの生活歴を踏まえて、趣味 嗜好 特技等考慮して、日常生活場面において、発揮できることの発見に心がけている。本人の無理のないように、その方の能力や役割をつける事により楽しみにもなり、満足して頂けるレク プログラムの提供を考え参加促しに取り組んでいる。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者様の希望にて、散歩 外気浴 他部署等の交流にて気分転換が図れるよう心がけている。又ご家族の協力を得ながら初詣、お墓参り 外食 外泊等もして頂き、個々の希望にできるだけ添えられるように努めている。 | 初詣、花見等に出かけ非日常の外出の機会を作っている。集団で出かける事は少ないが、家族の協力を得て外食・ドライブ・買い物等個別の外出を支援している。1F・2Fの合同散歩をして気分転換をしたり、日光浴や外気浴を兼ねて花壇の花苗植えや手入れを手伝ってもらっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的にはこちらで管理している。本人要望あれば能力に応じて、ご家族了解のもと、少しのお金は持っていていただいている。パン屋さんに来た時に自分で払っている。自動販売機にて好きな飲み物を買っている。必要な時にお出し、本人の要求に応じている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | いつでも使用できるようにはしている。ご家族の了解のもと要望者には固定電話のある所まで付き添い、援助としている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関 リビングに利用者様が作成した作品、書道、ちぎり絵、ぬり絵、写真等を掲示している。 利用者が、快適に過ごせるように、室温管理 環境整備に努めている。 玄関 リビングに、季節の花も飾っている。 | 梅・水仙・沈丁花等の季節の花が玄関に飾ってある。リビングには床の間付きの畳の間があり横になって寛ぐ事も出来る。外のベランダには椅子が置かれ外気浴や日光浴、お茶を飲んで楽しめる空間になっている。畳の間で利用者同士、仲良くお昼寝している写真もあった。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 限られた空間の中、時には一人でゆっくり過ごせる場所として、和室に、椅子 ソファを置き、利用してもらっている。又リビングの長ソファでは気の合った人同士が、談話ができるよう工夫している。 個人やグループで過ごす時間も大切にできるように配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご家族の理解と協力を得て、テレビ タンス 机 椅子 愛着服等、馴染みある物を持ち込んで頂き、居心地よく、落ち着き安心して過ごして頂ける環境に配慮している。 | 家族の面会も多くいろいろな物が沢山ある部屋もあれば、シンプルな室内で、いつでも帰れるように荷作りしている人、今までの習慣から自分で毎日布団をたたむ人もいる。それぞれ暮らしやすいように自分なりの居室作りをしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレ居室には貼り紙 目印等にて場所がはっきりわかるように、工夫している。 リビング周りには、手すりを付け、危険と予測される物の排除、安全な移動ができるように配慮した環境整備に努めている。他の部署に行く際も、渡り廊下になっている為、雨の日にも安全な移動ができる。 | | |